



3期目がスタート

鈴木洋町長が無投票当選

金山町長選挙において、無投票で再選を果たした鈴木洋町長（62歳）。

2期にわたる町政運営を踏まえ、3期目のスタートを切るに当たり、町が抱える課題にどのように取り組んでいくのか。
3期目の決意と抱負を聞きました。

このたびの「金山町長選挙」におきまして、有権者であり、町民である皆さんから、多大なご理解とご支援を賜り、本日（4月27日）から引き続き町政の舵取りの重責を担わせていただくことになりました。

これまでの8年間、元気ある町を目指して着実に前に進むと、皆さんの代表であります「町議会」の皆さんと協議・議論しながら、様々な事務事業に取り組みさせていただきましたが、皆さんのことを考える「政治」には、誠意と丁寧な心構えが欠かせないと感じ、初心を忘れることなく挑んで参りました。ソフト事業・ハード事業ともに今日まで多くの方々からご指導を頂戴いたしましたことに、心から感謝を申し上げます。

去る18日（月）に当選証書を頂戴し、町長という立場の使命と責任の重大さを改めて痛感しております。特に、2期目と同様に3期目の改選でも無投票で再選されました。しかし、決して「白紙委任」を受けたのではなく、選挙時の無投票は「自治力の低下」と指摘される方もおられる中、金山らしさを打ち出しながら、そのような指摘をされないよう、私は、人材育成・健康づくり・産業振興・交流と定住の促進の4つを柱に行政の自治力も、町内31地区の自治力も堅固なものに致すべく、町づくりの「主役」である町民の皆さんの、小さな声ながらも大切な意見や地域の課題を真正面から受け止め、2期目にも増して政策や施策に反映することに重きを置く所存でございます。

そのために、自らを引き締め、また、常に「町民全体の奉仕者」として精一杯の努力を惜しまないことこそが大事であり、優しさを繋ぎ、夢や希望が持てる「町」をつくるには、様々な課題を解決すること。そのためにも知恵を出し合い、私はじめ職員と

一緒に汗を流し、これからの金山を担う子供たちが、自信をもって町に住み、自分が生まれたふるさと、郷土の誇りを更なる次世代に繋げていける環境を整えなければなりません。

地方創生が謳われる中、人口減少の度合いを鈍化させ、また、2025年問題と評される「超高齢化社会」を迎えるに当たり行政として何をしなければならぬのか。また、何をしなくて良いのか。という観点を含め「福祉の向上」を目指さすことが欠かせない時代を迎えようとしております。

これからの金山を町として成せること、また国をはじめ県からの支援を頂きながらも様々な課題を解決する。それを着実に実現するため、町議会の方々や町民の皆さんと協力し合い、そして、4つの柱の下、笑顔あふれる町を目指して一層の精進を忘れず柔軟性と緩急ある姿勢で臨んで参ります。どうぞ、これまで以上のご指導をお願い申し上げます。3期目に向けた決意と抱負に替えさせていただきます。